OLYMPUS

CAMEDIA
デジタルカメラ

X-200
D-560ZOOM
C-350ZOOM

取扱説明書

- このたびは、オリンパス製品をお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、大切な撮影（海外旅行など）の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

はじめに

このたびはオリンパス デジタルカメラをお買上げくださいまして、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用により、万一の損害や、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI ）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF 」です。

INDEX

もくじ

3 撮影の基本　46

4 撮影の応用　65

5 再生　79

6 カメラの便利機能　97

7 プリント予約 109

8 その他 118

ご使用の前に、この内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

安全にお使いいただくために

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない**。これらのガスが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で使用しない。**目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。
- **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **カメラで日光や強い光を見ない。**視力障害をきたすおそれがあります。
- **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。**充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、別売のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない。**火災や感電の原因となることがあります。

● **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
● **分解や改造をしない。**感電やけがをする原因となります。
● **内部に水や異物を入れない。**万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、火災や感電の原因になりますので、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注意

● **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。(電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。)
● **濡れた手で操作しない。**感電の危険があります。またACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
● **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
● **温度の高い所へ放置しない。**部品が劣化したり、火災の原因となります。
● **専用のACアダプタ以外は使用しない。**カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また別売のACアダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のACアダプタの使用により生じた傷害は補償しかねますので、あらかじめご了承ください。
● **AC アダプタのコードを傷つけない**。AC アダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。
以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
- 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
- AC アダプタのコードに傷、断線、または電源プラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用または保管する場合、以下のような場所で長時間使用したり放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
    直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCDの退色・焼きつきを起こすことがあります。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど、急激に温度が変わったときはカメラ内部で結露する場合があります。ビニール袋などに入れてカメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- 三脚に取り付ける際、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- 本体の電気接点部には手を触れないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

- 充電式電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。
- 火中への投下や、加熱をしないでください。
- ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用・放置しないでください。
- 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、アルカリ液の飛散が生じ危険です。

● 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に、直接接続しないでください。
● 電池の液が目に入ると、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
● 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠ 警告

● 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
● 以下の内容を守らない場合、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
  • このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
  • 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
  • 充電できないアルカリ電池やリチウム電池、リチウム電池パック（CR-V3）を充電しないでください。
  • ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
  • 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れている電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。
  • 市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池は、絶対にご使用にならないでください。
● このような形状の電池はご使用になれません。

シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）、または一部が剥がされているもの。

負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの。

負極（マイナス面）が平らな電池。（負極の一部がシールに覆われていても、覆われていなくても使用できません。）

● ニッケル水素電池の充電が、所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
● 液漏れ、変色、変形、その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
● 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。

- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 当社製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA（キャメディア）」専用です。他の機器に使用しないでください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長期間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- 充電式電池は必ず使用する電池を同時に（機種により4本または2本）充電してご使用ください。
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やリチウム電池パック（CR-V3）などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
- マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲
  放電（機器使用時）：0 ～40 ℃
  充電：0 ～40 ℃
  保存：－20 ～30 ℃
  上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。
- 長時間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
- 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
- 長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。
- 電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。
- **ご使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には＋－端子をテープで絶縁してから、最寄りの充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。**

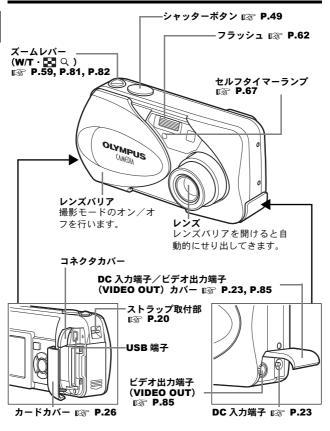
液晶モニタについて

本製品は液晶モニタを使用しています。
これらは液晶モニタに関するご注意です。

- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

1 準備

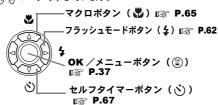
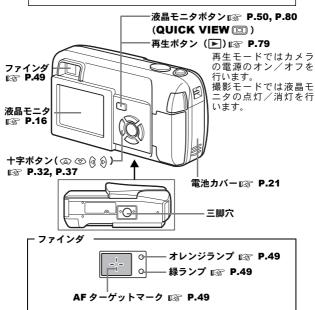
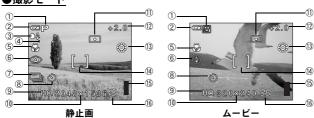
各部の名称

カメラ

十字ボタン

十字ボタンにはそれぞれの機能があります。その他に方向キーとしても使用します。十字ボタンのどの方向キーを押すかを ⓐ ⓥ ⓒ ⓓ マークで示しています。

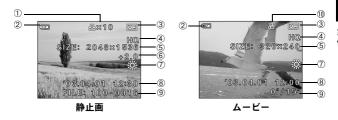
ファインダ

液晶モニタの表示

●撮影モード

	項目	表示例	参照頁
①	シーン選択／ムービー	P、、、、、	P.46
②	電池残量	、	P.18
③	緑ランプ	○	P.49
④	フラッシュ発光予告 手ぶれ警告／フラッシュ充電	（点灯） （点滅）	P.49
⑤	マクロモード		P.65
⑥	フラッシュモード	、、	P.62
⑦	ドライブ	、	P.69
⑧	セルフタイマー		P.67
⑨	画質	SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.73
⑩	画像サイズ	2048×1536、1024×768、640×480など	P.73
⑪	測光		P.68
⑫	露出補正	-2.0、-1.5、-1.0、-0.5、+0.5、+1.0、+1.5、+2.0	P.76
⑬	ホワイトバランス	、、、	P.77
⑭	AFターゲットマーク	[ ]	P.49
⑮	メモリゲージ	、、、	P.18
⑯	撮影可能枚数 撮影可能秒数	15 36”	P.51 P.57

●再生モード

画面に表示される情報量を「情報表示」機能のオン／オフで選択できます。下の画面は「情報表示」の機能をオンにしたときの画像です。☞「画像の詳細情報を表示する（情報表示）」（P.102）

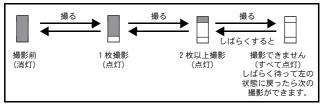
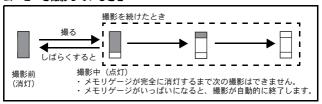
静止画　　　ムービー

	項目	表示例	参照頁
①	プリント予約・ プリント枚数	×10	P.111
②	電池残量	、	P.18
③	プロテクト		P.89
④	画質	SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.73
⑤	画像サイズ	2048×1536、1024×768、640×480など	P.73
⑥	露出補正	-2.0、-1.5、-1.0、-0.5、+0.5、+1.0、+1.5、+2.0	P.76
⑦	ホワイトバランス	WB AUTO、、、、	P.77
⑧	日時	'03.04.01　12:00	P.34
⑨	ファイル番号（静止画） 経過秒数／記録時間（ムービー）	100-0016 0''／15''	P.110
⑩	ムービー		P.87

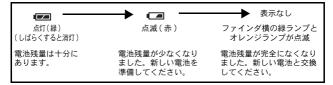
注意

• ムービーの場合、画像を選択して表示したときと、ムービー再生中で表示内容が異なります。

●メモリゲージについて

撮影すると、メモリゲージが点灯します。点灯中は撮影した画像をカードに記録しています。メモリゲージの表示は、撮影状態によって次のように変化します。
メモリゲージがすべて点灯したときは、しばらく待って消えてから撮影を再開してください。

静止画を撮影しているとき

ムービーを撮影しているとき

●電池マークについて

カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、液晶モニタの電池残量表示が以下のように表示されます。

本書の見方

メニューは矢印の順に操作します。操作方法の詳細については☞「メニューの操作方法」（P.38）を参照してください。

画像の明るさを変える（露出補正）

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。0.5段刻みで±2.0の範囲で設定できます。
液晶モニタを点灯させているときは、露出を補正した結果が確認できます。

1 撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［露出補正］を選択し、▷を押します。
☞「メニューの操作方法」（P.38）

OKボタン
十字ボタン

2 △▽を押して補正値を選択します。
・プラス［+］で明るく、マイナス［−］で暗くなります。

撮影 画 カ 設
シーン選択
測光
露出補正 0.0
ドライブ
デジタルズーム

操作が必要なボタンとその位置がわかるように表記しています。

十字ボタンのどの方向キーを押すかを△▽◁▷マークで示しています。

このページは説明のためのサンプルです。実際のページとは異なる場合があります。

本書の表記について

注意	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

ストラップを取り付ける

1 **ストラップ取付部にストラップの短い方を通します。**

2 **ストラップの長い方を輪にくぐらせます。**

3 **少し強めに引っ張り、ゆるんで抜けないことを確認してください。**

注意

- カメラをストラップで下げているときは､他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- 手順にしたがってストラップを正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れてカメラを落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

電池を入れる

電池はリチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）1個、または単3アルカリ電池、ニッケル水素電池2本を使用します。

重要

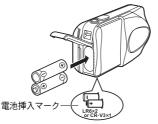
- **CR-V3は充電式電池ではありません。**
- **リチウム電池パックCR-V3のラベルは、はがさないでください。**
- **単3マンガン電池は使用できません。**

1 以下のことを確認してください。

2 電池カバーを Ⓐの方向にスライドさせます。

- ロックが外れて電池カバーが Ⓑの方向へ開きます。
- カバーをスライドさせるときは指の腹を使って開けてください。爪などを使うとけがをすることがあります。

3 図のように電池の向きを正しく合わせて入れます。

単3形電池の場合

リチウム電池パックの場合

単 3 形電池の場合は、カメラ底面に電池挿入方向を示す表示があります。

リチウム電池パックの場合は、図の向きにリチウム電池パックを入れます。

4 電池カバーで電池を押さえながらⒸの方向に閉じて、Ⓓの方向にスライドさせます。

- 電池カバーが閉まりにくいときは無理に押さず、電池カバーの の刻印をしっかり押さえ、電池カバーを閉じた状態で図の矢印の方向へ押してください。

注意

- 電池を外して約 30 分放置すると、日時の設定は初期状態に戻ります。

電池使用時のご注意

デジタルカメラは動作状態により、消費電力が大きく変わります。消耗した電池やアルカリ電池などをお使いのときは、電池残量警告（P.18）が表示されずにカメラの電源が切れる場合があります。

別売の電池やACアダプタを上手に選ぶ

このカメラでは付属の電池の他、次の電池・ACアダプタを使用することができます。用途にあわせてお選びください。

●リチウム電池パックCR-V3（充電できません）

リチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）は寿命が長く、旅行などにも便利です。

●ニッケル水素電池（充電式電池）

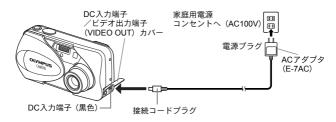
当社製ニッケル水素電池（充電器セットBU-50SNH）は、繰り返し使用できるので経済的です。ただし、電池の容量を使いきらずに充電を繰り返すと1回の使用時間が次第に短くなります。

●単3アルカリ電池

旅行先などで電池が消耗しても、どこでも入手しやすい単3アルカリ電池がご使用いただけます。ただし、銘柄や使用条件によって撮影可能枚数が大きく変わります。ご使用の際は液晶モニタをこまめにお切りください。

●ACアダプタ

画像をダウンロードするなど、時間がかかる作業を行なう場合には、ACアダプタの使用をおすすめします。
家庭用コンセントを使う場合は専用のACアダプタ（E-7AC）が必要です。専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。また、電源は必ずAC100Vでご使用ください。

注意

- マンガン電池は使用できません。
- 電池を使用してカメラをパソコンに長時間接続しているとき、途中で電池残量がなくなると画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。また、パソコンとの接続中には、ACアダプタを抜き差ししないでください。
- カメラの電源が入っているときに電池やACアダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や機能にトラブルが生じる場合があります。
- 電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を消費するため、電池の消費が早くなることがあります。
  - 再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
  - ズーム動作を繰り返す。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - パソコンとの接続時。
- 本書の「安全にお使いいただくために」（P.8）およびACアダプタの取扱説明書を必ずお読みください。
- ACアダプタを接続しているときに、カメラに電池が入っていても電力はACアダプタから供給されます。カメラ内の電池は充電されません。

カードを入れる

本書では、xD ピクチャーカードを「カード」と呼びます。このカメラで撮影した画像は、カードに記録されます。

カードについて

カードとは、撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。カードに記録された画像は自由に削除したり、パソコンで加工することができます。

① インデックスエリア
　カードに保存されている内容がわかるように、ここに記入できます。

② 接触面（コンタクトエリア）
　カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。

使用できるカード

- xD ピクチャーカード（16～256MB ）

- オリンパス製以外の市販のカードや、パソコンなどの他の機器でフォーマットしたカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。☞「フォーマットする（カードセットアップ）」（P.100）

1 以下のことを確認してください。

2 カードカバーを開けます。

3 カードの向きを図のように正しく合わせて入れます。

- カードが斜めに入らないようにまっすぐに差し込みます。
- カードを奥まで差し込むとカチッという音がして、ロックされます。
- カードの向きを間違えたり、斜めに入れた場合、接触面が破壊されたり、カードがカメラから抜けなくなることがあります。
- カードが奥まで挿入されていないと、カードに記録できなくなることがあります。

カードが正しく入った状態

4 カードカバーを閉じます。

カードを抜くとき

1 以下のことを確認してください。

2 カードカバーを開けます。

3 カードを一度奥に向かって押しこんで、そのままゆっくり戻します。

• カードが手前に出て止まります。

注意

カードを取り出す際にカードを押した指をすぐにはなしたり、指ではじくようにして押し出すと、カードが勢いよく飛び出すことがあります。

4 カードをつまんで取り出します。

注意

• カードはペンなどの先のとがったものや硬いもので押さないでください。
• カメラの電源が入っているときは絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したりしないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータの復旧はできません。

電源を入れる／切る

●撮影するとき（撮影モード）

電源を入れる … **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。レンズがせり出します。
レンズバリアを開けてもレンズがせり出してこないときは、レンズバリアがはじめのクリック位置で止まっている場合があります。カチッと音がするところまで開いてください。

電源を切る … **レンズバリアをレンズのところまで少し閉じます。**

レンズに触れる直前にカチッとした感触があり、レンズが引き込まれます。レンズが完全に引き込まれたら、レンズバリアを完全に閉じます。
電源が切れます。

ヒント

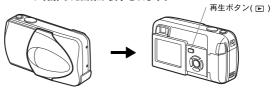
- 電源を入れたまま約3分間何も操作しないと、カメラは電池の消耗を防ぐためにスリープモード（待機状態）になり、動作を停止します。液晶モニタが点灯しているときは自動的に消灯します。更に5分後には自動的にレンズを収納します。シャッターボタンやズームレバーなどを操作するとカメラはすぐに動作を再開します。しばらく撮影しないときはできるだけ電源を切っておいてください。

注意

- レンズバリアを閉じる際は、レンズに強く押し当てないでください。キズや故障の原因になります。

●再生するとき（再生モード）

電源を入れる … **レンズバリアを閉じた状態で ▶ を押します。**

再生モードで電源が入ります。液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。

電源を切る… **▶ を押します。**

液晶モニタが消灯し、電源が切れます。

ヒント

- 電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、しばらくしてから画像が表示されることがありますが、故障ではありません。

注意

- カメラの電源が入っているときは、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、ACアダプタを抜き差ししないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータは復旧できません。カードを交換するときも、必ず電源を切ってからカードカバーを開けてください。

電源が入ってる状態

レンズが出ている

液晶モニタが点灯している

- 液晶モニタが消灯していてもレンズが出ている状態では電池を消費しています。

電源が入っていない状態

レンズバリアを閉じている

液晶モニタが消灯している

カードが認識されないときは（カードチェック）

電源を入れると、カードチェックが自動的に行われます。カードが入っていなかったり、このカメラで使用できないカードが入っているときは、以下の画面が表示されます。

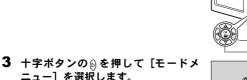
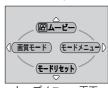
注意

• フォーマット（初期化）するとカード内の全てのデータが消去されますので、ご注意ください。

液晶モニタ表示	こうしましょう
カードを認識 できません	カードがカメラに入っていません。またはカードが奥までしっかりと入っていません。 → カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK	カードがこのカメラのシステムでは読み込めません。新しいカードに入れ換えるか、カードをフォーマットします。 → 十字ボタンの△▽を押して［電源オフ］を選択し、OKを押して新しいカードを入れてください。 →カードをフォーマットしてください。 十字ボタンの△▽を押して［フォーマット］を選択し、OKを押すとフォーマットを確認する画面が表示されます。もう一度［フォーマット］を選択してOKを押します。 フォーマットが始まります。フォーマットが終わると、撮影できる状態になります。

1 準備

カメラで表示する言語を切り替える

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを日本語でなく、他の言語にすることができます。日本語に戻すこともできます。
初期設定は日本語になっています。

1 レンズバリアを開けます。

2 OK を押します。
- トップメニューが表示されます。

3 十字ボタンの ▷ を押して［モードメニュー］を選択します。

トップメニュー画面

4 △▽を押して［設定］タブを選択し、▷ を押します。

5 △▽を押して［ ］を選択し、▷ を押します。

6 **△▽を押して表示したい言語を選択し、OK を押します。**

7 **再度 OK を押してメニューを終了します。**

8 **電源を切るときは、レンズバリアを閉じます。**

ヒント
- 再生モードからでも同じ手順で設定することができます。

日付・時刻を設定する

1 レンズバリアを開けます。

2 ㊫ を押します。

• トップメニューが表示されます。

3 十字ボタンの ▷ を押して［モードメニュー］を選択します。

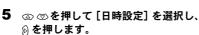
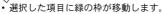
トップメニュー画面

4 △▽ を押して［設定］タブを選択し、▷ を押します。

［設定］タブ

5 △▽ を押して［日時設定］を選択し、▷ を押します。

• 選択した項目に緑の枠が移動します。

1 準備

6 △▽を押して日付の順序を、"年-月-日"、"月-日-年"、"日-月-年"から選択し、▷を押します。

- 年の入力に移動します。
- 以下の手順は"年-月-日"に設定した場合の説明です。

7 △▽を押して最初の項目を入力し、▷で次の項にすすみます。

- ◁を押すと、1つ前の項目に戻ります。
- "年"の上2桁は固定されています。

8 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。

- カメラの時間表示は24時間表示を使用しています。たとえば、午後2時は14：00と表示されます。

9 OKを押します。

- 0秒の時報に合わせてOKを押すと、正確に時間を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。

10 電源を切るときは、レンズバリアを閉じます。

注意

- 電源を切っても、日時の設定は変更するまで保持されます。
- 電池を抜いた状態で約30分放置すると、日時の設定は解除されます（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には、日時の設定が正しいことを確認してください。

ヒント

- 再生モードからも同じ手順で設定することができます。

1 準備

カメラの正しい構え方

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。
縦位置で撮影するときは、フラッシュがレンズより上に位置するように持ちます。
レンズとフラッシュに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

正しい構え方

横位置

縦位置

悪い例

注意

• シャッターボタンを押し込んだときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、静かにシャッターボタンを押しましょう。

2 メニューについて

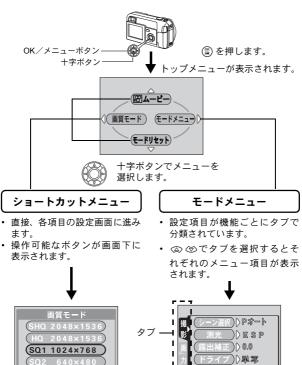
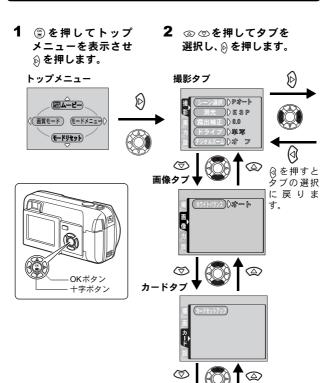
メニューの種類

カメラの電源を入れて Ⓜ を押すと、液晶モニタにトップメニューが表示されます。カメラの各設定はメニューで行います。ここでは撮影モードの画面を使って、メニューのしくみについて説明します。

メニューの操作方法

1 ㊉を押してトップメニューを表示させ ▷を押します。

2 △▽を押してタブを選択し、▷を押します。

◁を押すとタブの選択に戻ります。

3 ⊜⊜を押して設定する項目を選択し、⊳を押します。

選択された項目に緑色の枠が移動します。

⊲ または OK

⊲ または OK を押すとメニュー項目の選択に戻ります。

4 ⊜⊜を押して設定を変更します。
OK を押すと設定が完了します。
再度 OK を押すと、メニューが終了し、撮影できる状態になります。

注意

- カメラの状態や設定内容などにより選択できない項目があります。
- 撮影モードでは、メニューを表示した状態のままでも、シャッターボタンを押すと撮影できます。
- 設定した機能を電源を切っても保持させておきたい場合は、［設定クリア］の機能を［オフ］に設定してください。☞「電源を切っても設定を残す（設定クリア）」（P.98）

2
メニューについて

ショートカットメニュー一覧

撮影モード

トップメニューに設けられているメニューをショートカットメニューと呼びます。

静止画撮影時

ムービー撮影時

ムービー

ムービーを撮影します。静止画のモードになっているときに表示されます。	P.57

静止画

静止画を撮影します。シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影ができます。ムービーのモードになっているときに表示されます。	P.49

画質モード

撮影する画像の画質や画像の記録サイズを選択します。 静止画　：SHQ、HQ、SQ1、SQ2 ムービー：HQ、SQ	P.73

モードリセット

露出補正やホワイトバランスなど変更を加えた設定を初期設定に戻します。撮影モードを［ ムービー］に設定しているときは［ 静止画］に戻ります。	P.97

再生モード

静止画再生時

ムービー再生時

自動再生

記録されている静止画を順に表示します。静止画再生時に表示されます。	P.84

ムービープレイ

ムービーを再生します。ムービー画像選択時に表示されます。	P.87

情報表示

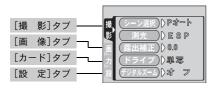
画像の撮影情報を表示します。	P.102

1コマ消去

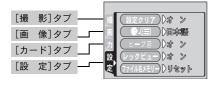
表示している静止画またはムービーを消去します。	P.90

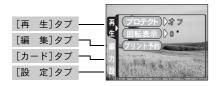
モードメニュー一覧

モードメニューの中は4つのタブに分けられています。 を押して画面の左側にあるタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。

撮影モード

［撮　影］タブ		
シーン選択	撮影モードを［Pオート］［ポートレート］［風景］［夜景］［セルフポートレート］から選択します。	P.46
測　光	測光方法を［ESP］［スポット］から選択します。	P.68
露出補正	画像の明るさを設定します。	P.76
ドライブ	撮影方法を［単写］［連写］から選択します。	P.69
デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらに高倍率のズーム撮影が可能です。	P.60
パノラマ	カードのパノラマ機能を使って、パノラマ撮影をします。	P.70
合成ツーショット	連続して撮影した2枚の静止画を合成します。	P.72

［画　像］タブ		
ホワイトバランス	光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定します。	P.77

［カード］タブ		
カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P.100

［設　定］タブ		
設定クリア	カメラの電源を切ったときに設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.98
	液晶モニタに表示される言語を切り換えます。	P.32
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオン／オフにします。	P.105
レックビュー	撮影した画像の記録中に、その画像を液晶モニタに表示するかどうか選択します。	P.104
ファイル名メモリー	ファイル名のつけかたを変更します。	P.106
ピクセルマッピング	CCDと画像処理機能のチェックを行います。	P.107
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調整します。	P.103
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.34
ビデオ出力	テレビの映像信号方式に合わせて［NTSC］［PAL］から選択します。映像信号方式は国によって決まっています。	P.108

再生モード

[再　生]タブ		
プロテクト	画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）します。	P.89
回転表示	撮影した画像を時計回り（+90°）、または反時計回り（-90°）に回転して表示させます。	P.86
プリント予約	撮影した画像のプリント条件を設定します。	P.109

[編　集]タブ		
モノクロ作成	撮影した画像からモノクロ画像を作成し別の画像として保存します。	P.93
セピア作成	撮影した画像からセピア画像を作成し別の画像として保存します。	P.93
リサイズ	撮影した画像の画像サイズを小さくして別の画像として保存します。	P.94
インデックス作成	撮影したムービーを9分割画面で表示するインデックス画像を作成します。	P.95

[カード]タブ		
カードセットアップ	カード内の全ての画像・データの消去をします。（全コマ消去・フォーマット）	P.91 P.100

[設　定]タブ		
設定クリア	カメラの電源を切ったときに設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.98
(言語アイコン)	液晶モニタに表示される言語を切り換えます。	P.32
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオン／オフにします。	P.105
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調整します。	P.103
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.34
ビデオ出力	テレビの映像信号方式に合わせて［NTSC］［PAL］から選択します。映像信号方式は国によって決まっています。	P.108
インデックス表示	インデックス再生時、液晶モニタに表示する画像の枚数を設定します。	P.83

撮影モードについて

このカメラは静止画撮影とムービー撮影ができます。
静止画撮影では、撮影の目的や状況に合わせて、［シーン選択］（Pオート、ポートレート、風景、夜景、セルフポートレート）の中から最適なモードを選ぶことができます。
初期設定は［Pオート］になっています。この操作をしなくても通常の撮影はできます。

1 レンズバリアを開けます。
- 撮影モードで電源が入ります。

2 ㊍を押します。
- トップメニューが表示されます。

3 十字ボタンの▷を押して［モードメニュー］を選択します。
- ムービーを撮影するときは、ここで△を押して［ムービー］を選択します。
☞「ムービーを撮る」（P.57）

4 △▽を押して［撮影］タブを選択し、▷を押します。

5 ⊜⊝を押して［シーン選択］を選択し、⊳を押します。
• 選択した項目に緑の枠が移動します。

6 ⊜⊝を押して、［P オート］［ポートレート］［風景］［夜景］［セルフポートレート］から撮影状況にあわせて選択します。

7 ㊋を押します。
• 再度㊋を押すと、メニューが終了します。

● 静止画

静止画を撮影します。撮影シーンに合わせて撮影モードを選ぶことができます。

● ムービー

ムービーを撮影します。撮影モードのトップメニューから選択します。☞「メニューの種類」（P.37）
被写体が移動しても、カメラは常にピントや露出が正しく合うように作動します。音声は記録されません。☞「ムービーを撮る」（P.57）

静止画の撮影モード

● Pオート（初期設定）

通常の撮影に使用します。自然な色合いになるようにカメラが自動的に設定します。フラッシュや測光などその他の機能は、自由に設定できます。

● ポートレート

人物撮影をするのに最適です。肌色の質感の再現を重視しています。カメラが自動的にポートレート撮影に適した条件を設定します。

● 風景

風景を撮るのに最適です。カメラが自動的に風景撮影に適した条件を設定します。

● 夜景

夜の景色を撮るのに最適です。通常の撮影よりも長いシャッター速度で撮影します。夜景以外のモードで街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので光っている点だけの画像になってしまいます。夜景モードでは、街の様子も写し出します。カメラが自動的に夜景撮影に適した条件を設定します。フラッシュを発光させると夜景と人物を撮影することができます。☞「夜景モードで撮る」（P.55）

通常撮影（フラッシュ発光時）

夜景（フラッシュ発光時）

● セルフポートレート

撮影者がカメラを持って、自分を撮るのに最適です。ピントは近くに合うようになっています。カメラが自動的にセルフポートレート撮影に適した条件を設定します。ズームは広角の位置で固定され、変更できません。

ヒント

• 各モードで設定できる機能については☞「撮影モード別の設定可能な機能」（P.129）を参照してください。

注意

• 夜景モードでは、連写はできません。
• セルフポートレートモードでは、デジタルズーム、パノラマ撮影はできません。

静止画を撮る

静止画

ファインダを見て撮る方法と、液晶モニタを見て撮る方法があります。どちらもシャッターボタンを押すだけで、手軽に撮ることができます。
ムービー撮影モードに設定していたときは、Ⓞを押して、トップメニューから［静止画］を選択してください。

ファインダを見て撮る

ファインダをとおして決めた構図よりも、やや広い範囲が撮影されます。

1 レンズバリアを開けます。
- カチッと音がするまでスライドさせてください。

2 ファインダを見ながら構図を決めます。
- 50cm 以内の距離で撮影するときは、マクロ撮影をしてください。☞「マクロ撮影－近くのものを撮るには」（P.65）

3 シャッターボタンを軽く押して（半押し）、ピントを合わせます。
- ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。（フォーカスロック）
- フラッシュが発光するときは、オレンジランプが点灯します。

4 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます（全押し）。
- 撮影され、ピピッと音がします。
- 緑ランプの点滅が終わると、次の撮影が可能になります。
- オレンジランプが点滅し、カード記録が始まります。

ヒント

狙った被写体にピントが合わない

☞「ピントが合わないときは」(P.53)

緑ランプが点滅している

→ 被写体までの距離が近すぎます。50cm 以上離れて撮影してください。50cm 未満の距離で撮影するときは、マクロ撮影をしてください。☞「マクロ撮影－近くのものを撮るには」(P.65)

→ 被写体の条件によってはピントが固定されないことがあります。☞「ピントが合わないときは」(P.53)

シャッターボタンを半押ししたときに、オレンジランプが遅く点滅している

→ フラッシュ充電中です。撮影後にオレンジランプが速く点滅しているときは、画像を保存中です。消灯するまでお待ちください。

撮影した画像をすぐに確認したい

→［レックビュー］を［オン］にします。☞「撮影後すぐに画像を確認する（レックビュー）」(P.104)

液晶モニタを見て撮る

実際に写る範囲を確認しながら撮影できます。

1 レンズバリアを開けます。

- カチッと音がするまでスライドさせてください。

2 □ を押します。

- 液晶モニタが点灯します。☞「液晶モニタの表示」(P.16)

3 液晶モニタを見ながら構図を決めます。

撮影モード（P.46）
AFターゲットマーク（P.16）
撮影可能枚数（P.73）
メモリゲージ（P.18）
フラッシュ発光予告／フラッシュ充電（P.50）
緑ランプ
ファインダ横の緑ランプと同じ働きをします。（P.49）

4 ファインダを使った撮影と同じ手順で撮影します。

☞「ファインダを見て撮る」（P.49）

- 液晶モニタを消灯して撮影するときは、もう一度 [IOI] を押してください。

ヒント

液晶モニタが自動的に消灯した

→3分以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯します。更に5分後には自動的にレンズを収納します。シャッターボタンやズームレバーを操作すると再び点灯します。

液晶モニタが見にくい

→晴天下のように明るい場所では、液晶モニタの画像に縦スジが入ることがあります。この場合は、ファインダを使って撮影してください。撮影画像への影響はありません。

注意

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、ぶれる原因になります。
- オレンジランプの点滅中は、絶対に電池やACアダプタを抜かないでください。また、カードカバーを開けないでください。撮影した画像が保存されないだけでなく、撮影済みの画像が破壊されるおそれがあります。
- 強い逆光などで撮影すると、画像の影の部分に色がつくことがあります。

ファインダと液晶モニタを使い分ける

	ファインダ	液晶モニタ
長所	カメラがぶれにくく、周囲が明るくても写したいものがはっきり見えます。 電池の消耗が少ないです。	撮影する範囲を正しく確認できます。
短所	近くのものを撮影するとき、ファインダで見える範囲と撮影できる画像とのあいだにずれが生じます。	手ぶれが起こりやすく、周囲が明るいときや暗いときでは見えにくいことがあります。電池の消耗が早くなります。
こんな撮影に	スナップや風景写真など、気軽に撮影したいとき。	実際に写る範囲を確認しながら、撮影したいとき。人物や花のアップの撮影やマクロ撮影などをするとき。

- ファインダで見た構図より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。
- 写すものとの距離が近いと、左図のように実際に撮影される画面の範囲（斜線部）は、ファインダで見ている範囲と多少異なってきます。

ピントが合わないときは

狙った被写体にピントが合わないときは、以下の方法で被写体にピントを固定して撮影することができます。これをフォーカスロックといいます。

ピントを合わせてから構図を決める（フォーカスロック）

1 レンズバリアを開けます。

- 撮影モードで電源が入ります。

2 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせます。

- ピントが合いにくいものの場合はまず撮影したいものとほぼ同じ距離のものにカメラを向けます。

3 シャッターボタンを、緑ランプが点灯するまで半押しします。

- ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。
- 緑ランプが点滅したときは、ピントと露出が固定されていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらしてもう一度シャッターボタンを半押ししてください。

4 半押しの状態のまま撮影したい構図に合わせます。

5 シャッターボタンを全押しします。

ヒント

緑ランプが点滅している

→ 被写体までの距離が近すぎます。50cm 以上離れて撮影してください。50cm 未満の距離で撮影するときは、マクロ撮影をしてください。☞「マクロ撮影－近くのものを撮るには」（P.65）

→ 被写体の条件によってはピントが固定されないことがあります。☞「オートフォーカスが苦手な被写体」（P.54）

オートフォーカスが苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでフォーカスロックした後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてフォーカスロックした後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。

緑ランプ点滅
このようなものにはピントが合いません

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

縦線のないもの

緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

ピントを合わせたいものが中央にない

夜景モードで撮る

夜の景色を撮るときなど撮影モードを[夜景]に設定すると、夜景撮影に適した条件で撮影することができます。夜景モードで撮ると、フラッシュ発光時でもシャッター速度が最長1/30秒に固定されず、被写体や撮影時の状況に応じて最長2秒まで伸びます。また、シャッター速度が1秒より遅いとノイズリダクションが自動的に働き、ノイズの除去を行います。ノイズリダクションは、遅いシャッター速度で撮影すると発生する電気的なノイズを取り除く機能です。

ノイズリダクション:オフ

ノイズリダクション:オン

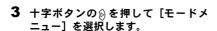
ここでの画像は、単にノイズリダクションの効果を示しているものです。実際の画像とは異なります。

1 レンズバリアを開けます。

- 撮影モードで電源が入ります。

2 OKを押します。

- トップメニューが表示されます。

3 十字ボタンの▷を押して［モードメニュー］を選択します。

4 ◎◎を押して［撮影］タブを選択し、◎を押します。

5 ◎◎を押して［シーン選択］を選択し、◎を押します。
- 選択した項目に緑の枠が移動します。

6 ◎◎を押して[夜景]を選択し、◎を押します。
- 夜景撮影に設定され、撮影モードに戻ります。
- 液晶モニタに夜景マーク が表示されます。

7 撮影します。
- シャッター速度が1秒より遅い場合はノイズリダクションが自動的に働きます。処理中は緑ランプとオレンジランプが点滅します。

注意

- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。
- 夜景モードではフラッシュの設定は、夜景モードに設定する直前の設定が保持されます。
- フラッシュの設定は夜景モードとは独立して設定されます。☞「フラッシュを使う」（P.62）
- 夜景撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを三脚などで固定して撮影してください。

3
撮影の基本

ムービーを撮る

ムービー

ムービーが撮影できます。撮影したムービーはカメラで再生したり、インデックス作成機能で静止画として別に保存することができます。
☞「ムービーの編集（インデックス作成）」（P.95）

1 レンズバリアを開けます。
- 撮影モードで電源が入ります。

2 Ⓞを押します。
- トップメニューが表示されます。

3 △を押して［ムービー］を選択します。
- ムービー撮影に設定され、撮影モードに戻ります。
- 液晶モニタに と、使用しているカードで記録できる撮影可能秒数の合計が表示されます。

4 液晶モニタを見ながら構図を決めます。

5 シャッターボタンを半押しします。

3 撮影の基本

6 シャッターボタンを全押しして撮影を始めます。

- ファインダ横のオレンジランプが点灯します。
- ムービー撮影中は被写体が移動しても、カメラは常にピントや露出が合うように動作します。
- ムービー撮影中は 🎥 マークが赤く点灯し、連続して記録できる撮影可能秒数が表示されます。

7 もう一度シャッターボタンを押して、撮影を終了します。

- オレンジランプが点滅し、カード記録が始まります。
- 撮影可能秒数が0 になると、自動的に撮影を終了します。
- 静止画撮影に戻るときはトップメニューから ⊘ を押して[📷 静止画]を選択します。

注意

- レンズバリアを閉じるとムービー撮影が解除されます。☞「電源を切っても設定を残す（設定クリア）」（P.98）
- フラッシュは使用できません。
- ムービー撮影は、画像の保存にしばらく時間がかかります。
- 撮影可能秒数は、画質などにより変わります。
- 音声は記録できません。

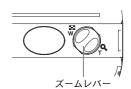
拡大して撮る

ズーム倍率3.0倍（光学ズーム 35mmカメラ換算：35mm ~ 105mm）の望遠や広角撮影が行えます。デジタルズームと組み合わせて使用すると、最大約10倍の撮影ができます。

光学ズームを使う

1 レンズバリアを開けます。

- 撮影モードで電源が入ります。

2 ファインダまたは液晶モニタで被写体を確認しながら、ズームレバーをスライドします。

広角：ズームレバーをW側に押す　望遠：ズームレバーをT側に引く

3 撮影します。

デジタルズームを使う

1 レンズバリアを開けます。

2 (OK)を押します。

• トップメニューが表示されます。

3 ▷を押して［モードメニュー］を選択します。

4 △▽を押して［撮影］タブを選択し、▷を押します。

5 △▽を押して［デジタルズーム］を選択し、▷を押します。

6 △▽を押して[オン]を選択し、OK を押します。

- 再度 OK を押すと、メニューが終了して、撮影できる状態になります。

撮影
シーン選択
測光
露出補正
ドライブ　オ フ
デジタルズーム　オ ン

7 ズームレバーをT側に引きます。

- ズームバーの白い部分が光学ズームの領域です。デジタルズームが設定されると、ズームバーに赤い領域が表示されます。光学ズームで最大までズームアップし、続けてT側に引くとデジタルズームになります。

ズームの拡大率によってカーソルが上下に移動します。

8 撮影します。

注意

- デジタルズームの領域で撮影すると、画像が粗くなることがあります。
- 高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。
- 液晶モニタを消灯するとデジタルズームは解除され、設定されている光学ズームの倍率で撮影されます。再び液晶モニタを点灯するとデジタルズームも使用できる状態になります。
- セルフポートレートモードでは、デジタルズームは設定できません。

フラッシュを使う

撮影状況、目的にあわせてフラッシュの設定をお選びください。

1 レンズバリアを開けます。

• 撮影モードで電源が入ります。

2 ▷（⚡）を押します。

• 現在のフラッシュの設定が表示されます。

3 引き続き▷を押してフラッシュの設定をします。

• ▷を押すたびに［オート発光］［◉ 赤目軽減］［⚡ 強制発光］［⊘ 発光禁止］の順で設定は変わります。

4 シャッターボタンを半押しします。

• フラッシュが発光条件のときは、オレンジランプが点灯します。

5 シャッターボタンを全押しして、撮影します。

フラッシュの到達距離
広角側：約0.2～3.4m
望遠側：約0.2～2.0m

ヒント

オレンジランプまたは⚡（フラッシュ充電中）マークが点滅した
→フラッシュ充電中です。オレンジランプが消灯するまでお待ちください。

注意

• 以下の場合、フラッシュ使用はできません。
ムービーモード／連写／パノラマ撮影

- マクロ撮影でズームがW（広角）側にあるときは特に、画面内で光の量がムラになることがあります。必ず再生して画像を確認してください。

●オート発光（表示なし）

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにAFターゲットマークを合わせて撮影してください。

●赤目軽減（◎）

人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、［赤目軽減］に設定するとこの現象が軽減されます。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

目が赤く写ります

注意

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

●強制発光（ϟ）

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

注意

- 非常に明るい状況下では、効果が現れにくくなることがあります。

●発光禁止（⊘）

暗いところでも発光させたくないときに使用します。美術館などのように、フラッシュを使用できない場所での撮影に使用します。フラッシュが届かない遠景の夜景・夕景を撮りたいときにも使用します。

注意

- 暗いところの撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

マクロ撮影－近くのものを撮るには

20～50cmの距離で撮影するときに使います。
通常の撮影もできますが、遠距離の被写体にピントを合わせるのに時間がかかります。

通常撮影

マクロ撮影

1 レンズバリアを開けます。

• 撮影モードで電源が入ります。

2 (　)を押します。

• 液晶モニタが点灯し、現在の設定が表示されます。

3 引き続き　を押してマクロモードの設定をします。

• 　を押すたびに［　マクロ］［マクロオフ］の順で設定は変わります。設定されると液晶モニタに　が表示されます。

4 撮影します。

注意

- 被写体との距離が近いと、ファインダ内の画像と実際に写る範囲にずれが生じます。撮影には液晶モニタの使用をおすすめします。
- フラッシュ使用時は影が目立ったり適正な明るさにならないことがあります。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って撮影します。カメラを三脚などにしっかり固定して撮影してください。記念写真を撮るときなどに便利です。

1　レンズバリアを開けます。

- 撮影モードで電源が入ります。

2　（　）を押します。

- 液晶モニタが点灯し、現在のセルフタイマーの設定が表示されます。

セルフタイマーボタン（　）

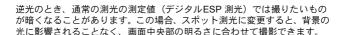
3　引き続き　を押してセルフタイマーの設定をします。

- 　を押すたびに［　セルフタイマーオン］［セルフタイマーオフ］の設定が変わります。設定されると、液晶モニタに　が表示されます。

4　撮影します。

- シャッターボタンを押すとセルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに2秒間点滅した後、撮影されます。
- セルフタイマーモードは、1回の撮影が終わると自動的に解除されます。

中央部の明るさを優先して撮る（測光）

逆光のとき、通常の測光の測定値（デジタルESP 測光）では撮りたいものが暗くなることがあります。この場合、スポット測光に変更すると、背景の光に影響されることなく、画面中央部の明るさに合わせて撮影できます。

ESP（表示なし） 画面の中央部と周辺部を別々に測光して、最適な露出にします。
スポット（ ） 画面の中央部のみを測光します。中央部の被写体に適正な露出にします。

1 撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［測光］を選択し、を押します。

「メニューの操作方法」（P.38）

2 を押して［スポット］を選択し、を押します。

- 再度を押すと、メニューが終了します。

3 撮影します。

ヒント

- レンズバリアを閉じると、ESP（初期設定）に戻ります。「電源を切っても設定を残す（設定クリア）」（P.98）

連写で撮る（連写）

シャッターボタンを押している間、最大約1.5コマ／秒で約11枚（連写モード、HQ使用時）の静止画を連続して撮影する機能です。連続した画像の中から好みの画像を選べるため、動いているものの撮影におすすめです。最初の1コマでピント、明るさ（露出）、ホワイトバランスが固定されます。連写した後で不要な画像は、消去することもできます。☞「1コマ消去」（P.90）

1 撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ドライブ］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

2 △▽を押して［連写］を選択し、OKを押します。

- 再度OKを押すと、メニューが終了します。

3 撮影します。

- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。
- ファインダを使って撮影してください。連写中、液晶モニタに被写体は表示されません。

注意

- レンズバリアを閉じると連写が解除されます。☞「電源を切っても設定を残す（設定クリア）」（P.98）
- フラッシュは使用できません。
- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

パノラマ撮影

当社製のxD ピクチャーカードを使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（付属のCD－ROMに収録）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

1 撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［パノラマ］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

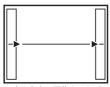
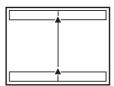
- パノラマが設定されます。液晶モニタに被写体が表示されます。

2 液晶モニタを見ながら、十字ボタンでつなげる方向を指定します。

▷ ：次の画像を右につなげます。

◁ ：次の画像を左につなげます。

△ ：次の画像を上につなげます。

▽ ：次の画像を下につなげます。

左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合

下から上へ画像をつなぐ撮影をする場合

3 被写体の端が重なるように撮影します。

- ピント・露出・ホワイトバランスなどは、1枚目で決定されます。1枚目に太陽を入れた撮影などをしないでください。
- 1枚目を撮影した後は、ズーム操作はできません。
- 最大10枚までパノラマ撮影が可能です。

端の枠に、前に撮影した画像の合わせるべき部分は残っていません。撮影時には、この枠の画像を覚えていて、次のコマの枠の画像と同じになるように撮影してください。前に撮影した画像の右端（左回りのときは左端）は、次の画像の左端（左回りのときは右端）と同じ画像が撮影できるように構図を設定して撮影してください。

- 10 枚撮り終わると警告マークが表示されます。

4 パノラマ撮影を終了するには、Ⓞ を押します。

- 画面内の枠が消えて、通常の撮影モードに戻ります。

注意

- パノラマ合成機能付きのカード以外でパノラマ撮影はできません。
- HQ ／ SHQ モードで多量のパノラマ撮影をするとパソコンで合成するときにメモリ不足になることがありますので、SQモードでの撮影をおすすめします。
- パノラマ撮影中は連写は使用できません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、CAMEDIA Masterをご使用ください。

合成ツーショット撮影

2回続けて撮影した画像を合成して、1枚の画像として保存します。別々の被写体を1枚の画像にして楽しむことができます。

再生時の画面

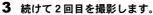
1　撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［合成ツーショット］を選択し、⊳を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

- 合成ツーショットが設定されます。液晶モニタに被写体が表示されます。

2　液晶モニタを見ながら1回目を撮影します。

- 撮影した被写体は左側に配置されます。

3　続けて2回目を撮影します。

- 撮影した被写体は右側に配置されます。

撮影時の画像

注意

- 合成ツーショット撮影中、パノラマ撮影、連写は使用できません。
- 電池消耗時（▭マーク表示）は、フラッシュが自動的にオフになります。
- ㊋を押すか、レンズバリアを閉じると合成ツーショットが解除されます。また、1枚目撮影後に合成ツーショットを中止したいときは㊋を押してください。1枚目に撮影した画像は記録されません。
- 1枚目撮影後にスリープモードに入ると合成ツーショットは解除されます。

画質モードを選択する（画質モード）

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや記録サイズ、またカードへの撮影可能枚数については次頁の表をご参照ください。数値は目安です。

画質モード	特徴	画質	ファイルサイズ
SHQ	• 画像サイズが大きくて高画質 • 撮影可能枚数は少なくなり、画像の保存に時間がかかる 使用例 • きれいにプリントする。 • A4サイズなどに大きくプリントする。 • パソコンで加工する。	きれい ↑	大きい ↑
HQ	• 初期設定 使用例 • パソコンで編集するときや葉書大にプリントする。		
SQ1 ／SQ2	• SHQ や HQ より小さい画像サイズを選べるモード • 標準的な画質 • 撮影可能枚数が多くなる 使用例 • メールに添付したりパソコンで画像を見る。	↓ 普通	↓ 小さい

静止画画質モード

画質モード	画像サイズ（ピクセル）	カードの撮影可能枚数（16MB の場合）
SHQ	2048 ×1536	6
HQ		20
SQ1	1024×768	76
SQ2	640×480	165

ムービー画質モード　一度に連続して撮影できる時間（秒）

画質モード	画像サイズ	撮影時間
HQ	320×240	15
SQ	160×120	60

使用しているカードに記録できる撮影時間（記録時間）の合計は、ムービー撮影モード（🎥 ムービー）に設定したときに画面に表示されます。

注意

- カードの撮影可能枚数はおおよその目安です。
- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行っても液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。
- ［ビデオ出力］を［PAL］に設定して、ビデオケーブルを接続した状態で撮影すると、ムービーの撮影時間は「ムービー画質モード」の表の時間とは異なります。

ヒント

- **画像サイズ**
  画像をカードに記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、画像サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。
- **画像サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ**
  撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024×768ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024×768のとき画像を等倍（100％）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280×1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

1 撮影モードでトップメニューから ◁ を押して［画質モード］を選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

2 △▽を押して画質モードを選択します。

• 静止画の場合は［SHQ］［HQ］［SQ1］［SQ2］から選択します。

• ムービーの場合は［HQ］［SQ］から選択します。

3 OK を押します。

• 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

注意

• レンズバリアを閉じると、画質の設定がHQ（初期設定）に戻ります。☞「電源を切っても設定を残す（設定クリア）」（P.98）

4
撮影の応用

画像の明るさを変える（露出補正）

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。0.5段刻みで±2.0の範囲で設定できます。
液晶モニタを点灯させているときは、露出を補正した結果が確認できます。

1　撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［露出補正］を選択し、ⓓを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

2　ⓐⓑを押して補正値を選択します。

- プラス［+］で明るく、マイナス［−］で暗くなります。

3　撮影します。

ヒント

- 通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く映ってしまいますが、+に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に−に補正すると効果的です。

注意

- レンズバリアを閉じると、露出補正が0.0（初期設定）に戻ります。☞「電源を切っても設定を残す（設定クリア）」（P.98）
- フラッシュを使用すると意図した明るさ（露出）で撮影できないことがあります。
- 撮るものの周囲が極端に明るいときや極端に暗いときは、露出補正では補正しきれないことがあります。

画像の色合いを調整する（ホワイトバランス）

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に表現することができます。

1 撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［ホワイトバランス］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

2 △▽を押して［オート］［晴天］［曇天］［電球］［蛍光灯］から撮影状況にあわせて選択します。

オート（表示なし）	光源によらず、自然な色合いで写るよう自動的に調整します。
晴天（☀）	晴れた屋外で自然な色に写ります。
曇天（☁）	曇った屋外で自然な色に写ります。
電球（電球マーク）	電球の灯りで自然な色に写ります。
蛍光灯（蛍光灯マーク）	蛍光灯の灯りで自然な色に写ります。

3 ㊫を押します。

• 再度㊫を押すと、メニューが終了します。

4 撮影します。

注意

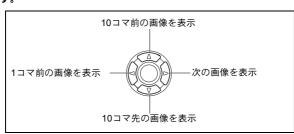
- レンズバリアを閉じると、オート（初期設定）に戻ります。☞「電源を切っても設定を残す（設定クリア）」（P.98）
- 特殊な光源下では、ホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
- オート以外のホワイトバランスに設定して撮影した場合、画像を再生して色を確認してください。
- オート以外のホワイトバランスに設定してフラッシュを発光した場合、液晶モニタで見た色と異なった色で撮影されることがあります。

5 再生

静止画を見る

1 レンズバリアを閉じた状態で▶を押します。

• 液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。（1コマ再生）

2 十字ボタンで見たい画像を表示します。

3 再生をやめるときは、▶を押します。

• 液晶モニタが消灯して電源が切れます。

注意

• 3分以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯し、カメラの電源が切れます。

簡単再生（QUICK VIEW）

撮影モードのままで画像を再生することができます。撮影した画像を確認後、すぐに撮影に戻りたいときに便利です。
簡単再生で表示した画像は、通常の再生モードと同様に、各機能が使用できます。

1 撮影モードで （QUICK VIEW）をすばやく 2 回続けて押します。（ダブルクリック）

- すぐに再生モードになり、最後に撮影した画像が表示されます。（1コマ再生）

2 撮影モードに戻るには、シャッターボタンを半押しします。

- 撮影モードに戻り、撮影することができます。
- シャッターボタンを全押しすると、すぐに撮影モードに戻り、撮影が行われます。

クローズアップ再生 Q

液晶モニタに表示される画像を4倍まで段階的に拡大表示します。

1 レンズバリアを閉じた状態で▶を押します。

- 液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。

2 十字ボタンで拡大したい静止画を表示します。

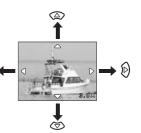
- 🎥 のついた画像は、拡大できません。

3 ズームレバーをT側に引きます。

- ズームレバーを引くごとに拡大して表示されます。

W側に押すと1倍の大きさに戻ります。

- 拡大表示中に十字ボタンを押すと、その方向に画像をずらして表示することができます。

注意

- 拡大した状態で画像を保存することはできません。

インデックス再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。表示するコマ数を4、9、16分割から選ぶことができます。☞「インデックス分割数を変えるには」(P.83)

1 レンズバリアを閉じた状態で▶を押します。

- 液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。(1 コマ再生)

2 ズームレバーをW側に押すとインデックス再生になります。

- 十字ボタンを押して画像を選択します。
  - ▷　:1つ次のコマへ移動。
  - ◁　:1つ前のコマへ移動。
  - △　:左上の画像の1つ前までのインデックスを表示。
  - ▽　:右下の画像の次からのインデックスを表示。
- ズームレバーをT側に引くと1コマ再生に戻ります。

5

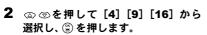
再生

インデックス分割数を変えるには

インデックス再生のコマ数を4コマ、9コマ、16コマの中から選択します。

1 再生モードでトップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［インデックス表示］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

2 △▽を押して［4］［9］［16］から選択し、OK を押します。

- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

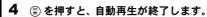
自動再生

カードに記録されている静止画像を1枚ずつ自動的に再生します。ムービーコマは、最初のフレームのみが静止画と同じように再生されます。

1　レンズバリアを閉じた状態で▶を押します。

2　静止画を表示して ⓞ を押し、トップメニューを表示します。

3　△（自動再生）を押すと、自動再生がスタートします。

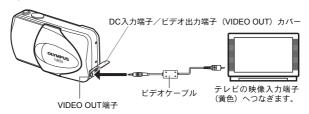
4　ⓞ を押すと、自動再生が終了します。

- ⓞ を押すまで自動再生が繰り返されます。

ヒント

- 長時間自動再生を行う場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過すると自動的に自動再生が終了し、カメラの電源が切れます。

テレビでの再生

付属のビデオケーブルでテレビに接続して画像を再生します。
静止画、ムービーどちらも再生できます。

1 カメラとテレビの電源を切り、ビデオケーブルでカメラのビデオ出力端子とテレビのビデオ入力端子を接続します。

2 テレビの電源を入れて「ビデオ入力」に設定します。

- ビデオ入力の設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 ▶を押します。

- 最後に撮影した画像がテレビに表示されますので、十字ボタンで表示する画像を選択します。
- 「クローズアップ再生」、「インデックス再生」、「自動再生」等の再生機能が可能です。

ヒント

- テレビで再生する場合は、ACアダプタ(別売)のご使用をおすすめします。

注意

- カメラのビデオ信号が、お使いのテレビの映像信号に合っていることを確認してください。☞「ビデオ出力」（P.108）
- ビデオケーブルを接続すると、カメラの液晶モニタ表示は消えます。
- テレビとの接続には必ず付属のビデオケーブルをご使用ください。
- テレビにより画像が画面中央からずれることがあります。
- テレビには画像全体を表示するため少し小さめに表示され、画像の外側に黒枠が表示されます。テレビからビデオプリンタに画像を出力すると、黒枠が表示されることがあります。

回転再生

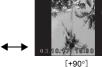
カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。このような場合、回転再生を使って画像を縦向きに表示することができます。時計方向に90度、反時計方向に90度の回転ができます。

1 再生モードでトップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［回転表示］を選択し、▷を押します。

2 △▽を押して［+90°］［− 90°］から選択します。

- 画像が回転して表示されます。
- ㊞を2回押すと、メニューが終了します。

［-90°］

撮影時の画像

［+90°］

注意

- 次の画像は回転再生できません。
  ムービー／プロテクトされた画像／パソコンで編集した画像／他のカメラで撮影した画像
- 電源を切っても、画像が回転された状態は記録されます。

5 再生

ムービーを見る

1 レンズバリアを閉じた状態で▶を押します。

• 液晶モニタが点灯します。

2 十字ボタンで 🎥 マークの付いた画像を表示します。

☞「静止画を見る」(P.79)

3 OK を押します。

• トップメニューが表示されます。

4 △を押して［ムービープレイ］を選択します。

5
再生

5 ⊛⊛を押して［再生］を選択して、㊋を押します。

- ムービーが再生されます。再生が終わるとムービーの先頭に戻ります。
- 再生終了後に、再びムービー再生 メニューが表示されます。

再生	もう一度再生します。
コマ送り	コマ送りをします。
中止	再生を中止します。

⊛⊛を押して［再生］［コマ送り］［中止］から選択し、㊋を押します。

●［コマ送り］を選択したときの操作

⊛　：ムービーの先頭のコマを表示します。

⊛　：ムービーの末尾のコマを表示します。

⊛　：ムービーのコマが進みます。押し続けると再生します。

⊛　：ムービーのコマが戻ります。押し続けると逆再生します。

㊋　：ムービー再生メニューが表示されます。

ヒント

- 撮影モードからも簡単再生（QUICK VIEW）でムービーを再生できます。☞「簡単再生（QUICK VIEW）」（P.80）

注意

- ムービーを再生するまでのアクセス時間は、ムービーの記録時間や画質モードによって異なります。

画像にプロテクト（保護）をかける ⊶

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

1 レンズバリアを閉じた状態で▶を押します。

- 液晶モニタが点灯します。

2 十字ボタンでプロテクトをかけたい画像を表示します。

☞「静止画を見る」（P.79）

再生ボタン(▶)
OKボタン
十字ボタン

3 ⊛ を押します。

- トップメニューが表示されます。

4 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［プロテクト］を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

5 △▽を押して［オン］を選択し、⊛ を押します。

- プロテクトを解除するには、［オフ］を選択します。
- 再度 ⊛ を押すと、メニューが終了します。

プロテクトされると表示されます。

注意

- プロテクトされた画像は1コマ消去／全コマ消去で消去できませんが、フォーマットを行うとすべて消去されます。

5 再生

画像を消去する

撮影した画像を消去することができます。
1コマ消去と全コマ消去があります。

注意

- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像にプロテクト（保護）をかける」（P.89）

1コマ消去

ここでは再生中のコマのみを消去する1コマ消去について説明します。カード内の全ての画像を消去する方法もあります。☞「全コマ消去」（P.91）

1 レンズバリアを閉じた状態で▶を押します。
- 液晶モニタが点灯します。

2 十字ボタンで消去したい画像を表示します。
☞「静止画を見る」（P.79）

3 ㊧を押します。
- トップメニューが表示されます。

4 ▽を押して［1コマ消去］を選択します。

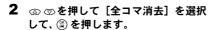
5 △▽を押して［消去］を選択して㊧を押します。
- 画像が消去され、メニューが終了します。

全コマ消去

カード内のすべての画像を消去します。

1 再生モードでトップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［カードセットアップ］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

2 △▽を押して［全コマ消去］を選択して、OKを押します。

3 △▽を押して［消去］を選択して、OKを押します。

- すべての画像が消去されます。

5

再生

静止画の編集

撮影した静止画を編集して別の画像として保存します。以下の編集を行うことができます。

モノクロ作成　白黒に変換して、別の画像として保存します。
セピア作成　セピア色に変換して、別の画像として保存します。
リサイズ　画像サイズを640×480、または320×240に変更して、別の画像として保存します。

1 レンズバリアを閉じた状態で▶を押します。

- 液晶モニタが点灯します。

2 十字ボタンで編集したい静止画を表示します。

☞「静止画を見る」（P.79）

3 Ⓞを押します。

- トップメニューが表示されます。

4 トップメニューから［モードメニュー］→［編集］→各編集項目を選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

- ［モノクロ作成］を選択☞ P.93
- ［セピア作成］を選択☞ P.93
- ［リサイズ］を選択☞ P.94

モノクロ作成

5 ［モノクロ作成］を選択した状態で、を押します。

6 を押して［新規作成］を選択し、を押します。

- 作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。作成されたモノクロ画像は元の画像とは別の画像として保存されます。
- モノクロ作成をやめるときは［中止］を選択してを押してください。

注意

- ムービーはモノクロにすることができません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

セピア作成

5 ［セピア作成］を選択した状態で、を押します。

6 を押して［新規作成］を選択し、を押します。

- 作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。作成されたセピア画像は元の画像とは別の画像として保存されます。
- セピア作成をやめるときは［中止］を選択してを押してください。

注意

- ムービーはセピアにすることができません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

リサイズ

5 ［リサイズ］を選択した状態で、 を押します。

6 を押して画像サイズを選択し、を押します。

- 作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。
  リサイズされた画像は元の画像とは別の画像として保存されます。
- リサイズを中止するときは［中止］を選択し、を押します。

注意

- 次の場合はリサイズできません。
  ムービーやパソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合
- 撮影時の画像サイズが640×480の場合、［640×480］の設定はできません。

ムービーの編集（インデックス作成）

作成したムービーの内容が一目でわかるようにムービーを9分割して画面に表示し、1つの画像として保存（インデックス作成）します。

1 レンズバリアを閉じた状態で▶を押します。

• 液晶モニタが点灯します。

2 十字ボタンで🎥のついた画像を選択します。

3 OKを押します。

• トップメニューが表示されます。

4 トップメニューから［モードメニュー］→［編集］→［インデックス作成］を選択し、OKを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

5 インデックスの先頭のコマを選択します。

十字ボタンを押しながら、選択枠内に先頭コマにしたい画像が表示されるまで再生してOKを押します。

5

再生

6 インデックスの後尾のコマを選択します。

手順5と同様に、十字ボタンを押しながら、選択枠内に後尾コマにしたい画像が表示されるまで再生して Ⓞ を押します。

7 ⊕⊖を押して[決定]を選択し、Ⓞ を押します。

- ムービーから抜き出された 9 コマの画像がインデックス表示された後、再生モードに戻ります。作成された画像は新規の画像として保存されます。
- コマ指定をやり直す場合は［再設定］を選択して Ⓞ を押します。手順5からやり直します。
- インデックス作成をやめるときは［中止］を選択して Ⓞ を押してください。

ヒント

- インデックス作成された画像は、ムービー撮影時の画質とは異なる静止画として保存されます。

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質
HQ	SQ1 (1024×768ピクセル)
SQ	SQ2 (640×480ピクセル)

注意

- ムービーの記録時間により、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。
- インデックス作成されるコマ数は、9コマです。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

5 再生

6 カメラの便利機能

変更した設定を元に戻す（モードリセット）

露出補正やホワイトバランスなどで変更を加えた設定を、初期設定に戻します。ムービー撮影モード（🎞 ムービー）にしている場合は、静止画撮影モード（📷 静止画）に戻ります。

注意
- 以下の設定は初期設定に戻りません。
  モードメニュー［設定］タブの機能
  （設定クリア／ 🗣☰ ／レックビュー／日時設定など）

1 撮影モードでトップメニューから ▽を押して、［モードリセット］を選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

2 △▽を押して［実行］を選択し、OKを押します。

- メニューが終了します。

電源を切っても設定を残す（設定クリア）

電源を切った後も、変更した設定を保持するかどうか選択します。設定クリアが適用される機能については、次項の表を参照してください。
設定クリアの［オン］［オフ］の設定は、すべてのモードで共通です。いずれかのモードで設定クリアを［オフ］に設定すると、撮影モード、再生モードにかかわらず、適用されます。

オン 電源を切ると変更した設定は初期設定に戻ります。
例：「画質モード」を[SQ1]に変更しても設定クリアが[オン]になっていると、電源を入れなおしたとき初期設定の「HQ」に戻ります。

オフ 電源を切っても変更した設定は保持されます。

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［設定クリア］→［オフ］または［オン］を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。

注意

- モードメニューの設定タブの機能（設定クリア、など）は、設定クリアがオンに設定されていても設定クリアしません。

●設定クリアが［オン］のとき、設定が元に戻る機能とその設定

機能名	初期設定	参照頁
液晶モニタ	消灯（オフ）	–
光学ズーム	ワイド	P.59
撮影モード	静止画	P.47
シーン選択	Pオート	P.46
ドライブ	単写（静止画）	P.69
デジタルズーム	オフ（等倍）	P.60
フラッシュ	オート	P.62
露出補正	0.0	P.76
測光	ESP	P.68
ホワイトバランス	オート	P.77
画質	HQ（2048×1536ピクセル）	P.73
マクロ	オフ	P.65

フォーマットする（カードセットアップ）

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしてください。
フォーマットするとプロテクトをかけた画像を含む全てのデータは消去されます。使用済みカードをフォーマットするときは大切なデータを消さないようご注意ください。

1 トップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［カードセットアップ］を選択し、を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

- 撮影モード
  フォーマット画面が表示されます。
- 再生モード
  カードセットアップ画面が表示されます。

2 フォーマット画面の場合はを押して［フォーマット］を選択します。

カードセットアップ画面の場合はを押して［フォーマット］を選択し、を押します。フォーマット画面が表示されたら、を押して［フォーマット］を選択します。

3 ㊙ を押します。

- 画面に処理中のバーが表示され、フォーマットされます。

注意

- フォーマット中は絶対に次のことをしないでください。カードが使用できなくなるおそれがあります。
  カードカバーを開ける／電池を取り外す／ACアダプタの抜き差しをする。

画像の詳細情報を表示する（情報表示）

再生時の画像の詳細情報を3秒間表示します。表示される情報の内容については☞「液晶モニタの表示」（P.16）を参照してください。

1 再生モードのトップメニューで◁（情報表示）を押すと、詳細情報が表示されます（オン）。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

- ㊫を押し、もう一度トップメニューを表示させて◁を押すと詳細情報は表示されなくなります（オフ）。

情報表示オフのとき

情報表示オンのとき

注意

- このカメラ以外で撮影した画像は、情報表示オン時でも日時、ファイル番号、電池残量だけが表示されます。
- DPOFを使用せずにプリントサービスを利用する場合に指定するファイル番号は、情報表示をオンにしたときに表示されます。
☞「プリントについて」（P.109）

液晶モニタの明るさを変更する（モニタ調整）

液晶モニタの明るさを見やすいように調整します。調整は、撮影モード、再生モードのいずれからでも行うことができます。
撮影モードのときはあらかじめ液晶モニタを点灯させておきます。

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［モニタ調整］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

2 液晶モニタを見ながら△▽を押して明るさを調整し、設定が決まったら OK を押します。

- △を押すと明るくなり、▽を押すと暗くなります。
- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

6

カメラの便利機能

撮影後すぐに画像を確認する（レックビュー）

撮影した直後に画像を液晶モニタに表示するかどうか設定します。

オン　撮影した画像をカードに記録中に表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。レックビュー中でもすぐに次の撮影に入れます。

オフ　記録中の画像は表示されません。次の撮影のために被写体を追いながら撮影する場合に便利です。

1 撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［レックビュー］→［オフ］または［オン］を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。

注意

- レックビューをオンに設定して液晶モニタを消して撮影しているとき、電池残量が少ない場合はレックビュー表示をしないことがあります。

警告音を消す（ビープ音）

カメラが発する警告音をオン／オフすることができます。ビープ音の設定は撮影モード、再生モードのいずれからでも行うことができます。

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ビープ音］→［オフ］または［オン］を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

- 再度 Ⓞ を押すと、メニューが終了します。

ファイル名をリセットする(ファイル名メモリー)

記録される画像に、ファイル名とそのファイルが入るフォルダ名がカメラ内部で自動的に生成されます。ファイル名とフォルダ名はそれぞれファイルNo.(0001-9999)、フォルダNo.(100-999)を含み、以下のように付けられます。

フォルダ名　　ファイル名

¥DCIM¥＊＊＊OLYMP¥Pmdd＊＊＊＊.jpg

フォルダ No.（100~999）
月（1~C）
日（01~31）
ファイル No.（0001~9999）

- ファイル名の「月」の表記は、1月〜9月は1〜9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

フォルダNo.とファイルNo.の付け方は、［リセット］［オート］の2種類あります。パソコンで画像を撮りこむ際に、扱いやすい方をお選びください。

ファイル名メモリーの設定

リセット　カードを入れ替えたときにフォルダNo.、ファイルNo.が両方ともリセットされます。フォルダNo.は「No.100」に、ファイルNo.は「No.0001」に戻ります。カード別に画像を管理するときに便利です。

オート　カードを入れ替えても、フォルダNo.、ファイルNo.とも前のカードから継続されます。複数のカードを管理するときでも、ファイル名が重複することがありません。全ての画像を通し番号で管理するのに便利です。

1　撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ファイル名メモリー］→［リセット］または［オート］を選択し、OKを押します。

☞「メニューの操作方法」(P.38)

- 再度OKを押すと、メニューが終了します。

注意

- ファイルNo.が9999を超えるとファイルNo.は0001に戻り、フォルダNo.が変わります。
- 最大のフォルダNo.999、ファイルNo.9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。新しいカードに取り換えてください。

画像処理機能をチェックする(ピクセルマッピング)

CCDと画像処理機能のチェックを同時に行います。この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分ほど時間を空けた後に実行します。

1 撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ピクセルマッピング］を選択し、Ⓓを押します。

☞「メニューの操作方法」(P.38)

- 「スタート」と表示されます。

2 Ⓞを押します。

- ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。終了するとモードメニューに戻ります。

注意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

ビデオ出力

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。「ビデオ出力」はビデオケーブルを接続する前に設定してください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。NTSC/PALの切り替えは、撮影モード、再生モードのいずれからでも行うことができます。

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ビデオ出力］→［NTSC］または［PAL］を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.38）

- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。

ヒント

主な国と地域のテレビ映像信号

カメラをお使いのときは、あらかじめご確認ください。

NTSC　日本、台湾、韓国、北米

PAL　ヨーロッパ諸国、中国

プリントについて

画像をプリントするには、以下の方法があります。

●プリント予約を設定してDPOF対応のお店でプリント、またはDPOF対応のプリンタでプリント

カードにプリント予約をします。プリント予約とは、カード内の画像に、プリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。

•DPOFとは

Digital Print Order Formatの略称。デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録する形式です。
プリント予約したカードをDPOF対応のお店に持っていくと、その予約内容のとおりにプリントできます。家庭でもDPOF対応のプリンタがあれば、可能です。

●オリンパス製デジタルプリンタCAMEDIA P-400/P-200でプリント

パソコンを使わずに、専用プリンタから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。
xD ピクチャーカードを直接プリンタに差し込むことはできません。カードアダプタ（別売）が必要です。

●画像をパソコンに転送して、パソコンに接続しているプリンタでプリント

パソコン上でJPEGの画像を表示するソフトウェア（インターネット閲覧ソフトやペイントソフトなど）があれば、パソコンに接続したプリンタでプリントすることができます。（CAMEDIA Masterを使ってもプリントできます。）お使いのソフトウェアでプリントできることをあらかじめご確認ください。詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
カメラとパソコンの接続や画像の転送については、別冊の「デジタルカメラ／パソコン接続操作説明書」をお読みください。

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。
（例） FILE: 100-0016

フォルダの通し番号　画像の通し番号

ヒント

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点（ピクセル）の数が用いられ、dpi （dot per inch）と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpi の値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。
プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モードをできるだけ高いものに設定することをおすすめします。☞「画質モードを選択する（画質モード）」（P.73）

注意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- DPOF予約できる枚数は1 枚のカードにつき999コマまでです。
- カードに空き容量が少ないと予約できない場合があります。
「カード残量がありません」と表示されます。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- プリント予約は、カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。

全コマ予約

カードの中の全画像をプリント予約します。プリントする枚数と撮影日時のプリントを指定することができます。

1 静止画を再生します。

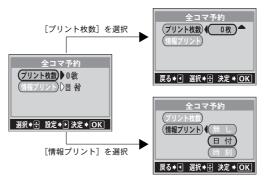
- 🎥 のついた画像はプリントできません。

2 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［プリント予約］を選択し、▷ を押します。

- すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するか選択する画面が表示されます。
  ［解除しない］を選択し、OK を押します。

3 △▽を押して、［全コマ予約］を選択し、OK を押します。

4 △▽を押して、［プリント枚数］［情報プリント］から選択し、▷ を押します。

5 プリント枚数、情報プリントの設定を行います。

●プリント枚数を設定するには

⊜⊜を押してプリント枚数を設定し、㊉を押します。
続けて情報プリントを設定するにはプリント枚数設定後◁を押して手順4に戻ります。

⊜　：枚数が増えます。
⊜　：枚数が減ります。

●情報プリントを設定するには

⊜⊜を押して［無し］［日付］［時刻］から選択し、㊉を押します。

無し　画像のみプリントされます。
日付　全ての画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。
時刻　全ての画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。

- プリント枚数、情報プリントの設定後、㊉を押すと、再生メニューに戻ります。

1コマ予約

選択した画像のみをプリント予約します。また、すでに予約した枚数や日時のプリントなどの条件を変更します。プリントするコマを表示してプリント枚数を設定します。

1 静止画を再生します。

- 🎥 のついた画像はプリントできません。

2 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［プリント予約］を選択し、▷ を押します。

- すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するか選択する画面が表示されます。
  ［解除しない］を選択し、OK を押します。

3 △▽を押して、［1コマ予約］を選択し、OK を押します。

カードプリント予約画面

4 十字ボタンを押して、プリント予約したい画像を表示させ、OK を押します。

- インデックス再生して画像を選択することもできます。☞「インデックス再生」（P.82）

5 プリント予約したい内容に応じて、十字ボタンで項目を選択します。

詳細予約 プリント枚数、情報プリントを設定します。
→手順6

7
プリント予約

1枚予約　プリント枚数が 1 枚の設定のみです。情報プリントの設定はありません。→プリント予約が設定されて、手順4に戻ります。

予約解除　表示している画像のプリント予約を解除します。→「プリント予約の解除」（P.116）

予約終了　プリント予約を終了します。→手順11

6 ⊜⊝を押して、［プリント枚数］［情報プリント］から選択し、⊳を押します。

7 プリント枚数、情報プリントの設定を行います。

●プリント枚数を設定するには

⊜⊝を押してプリント枚数を設定し、Ⓞを押します。

続けて情報プリントの設定をするにはプリント枚数、設定後⊲を押して手順6に戻ります。

⊜　：枚数が増えます。

⊝　：枚数が減ります。

●情報プリントを設定するには

⊜⊝を押して［無し］［日付］［時刻］を選択し、Ⓞを押します。

無し　画像のみプリントされます。

日付　プリント予約された全ての画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。

時刻　プリント予約された全ての画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。

8 プリント枚数、情報プリントの設定後、再度 ㊋ を押すと、プリント予約が設定されて手順4の画面に戻ります。

- 表示されている画像に 凸 マークが表示されます。

9 ㊋ を押して 1 コマ予約メニュー画面を表示させます。

10 ◁ を押して[予約終了]を選択します。

- カードプリント予約画面に戻ります。
- 再度 ◁ を押すと予約確認の画面が表示され、もう一度 ◁ を押すと、再生メニューに戻ります。

1コマ予約メニュー画面

11 モードメニューに戻るまで、繰り返し ◁ を押します。

- ㊋ を押すと、メニューが終了します。

プリント予約の解除

カード内の画像のプリント予約を解除します。
全コマの予約解除をする方法と不要なコマの予約だけを解除する方法があります。

1 マークのついた静止画を再生します。

2 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［プリント予約］を選択し、を押します。

• カードプリント予約画面が表示されます。

3 全ての画像のプリント予約を解除する場合は、を押して［解除する］を選択し、を押します。
不要な画像のプリント予約を解除する場合は、を押して［解除しない］を選択し、を押します。

カードプリント予約画面

4 予約モードを選択する画面が表示されますので、を押して［1コマ予約］を選択してを押します。

5 十字ボタンを押して、プリント予約を解除したい画像を表示させ、を押します。

• 1コマ予約メニュー画面が表示されます。

7 プリント予約

6 ▽を押して「予約解除」を選択します。

- プリント予約が解除され、手順5の画面に戻ります。

1コマ予約メニュー画面

7 他に予約解除をする画像がない場合は、OKを押して1コマ予約メニューを表示させ、◁を押します。

8 モードメニューに戻るまで、繰り返し◁を押します。

- OKを押すと、メニューが終了します。

8 その他

こんな表示がでたら

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
カードを 認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。 市販のクリーニングペーパーでカードの金色の金属部分を拭いて、もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
このカードは 使用できません	カードに問題があります。	このカードは使用できません。 新しいカードを入れてください。
書き込み禁止に なっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。 再度パソコンを使って解除してください。
撮影可能枚数が 0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
カード残量が ありません	カードに空き容量がなく、プリント予約やファンクション撮影など新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
画像が記録 されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が入っていません。撮影してから再生してください。
この画像は 再生できません	選択した画像に問題があり再生できません。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
カードカバーが 開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。

故障かな？と思ったら

うまく操作ができない

カメラが動かない、またはボタンを押しても動かない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が切れている	レンズバリアを開いて、電源を入れてください。	P.28
電池の向きが正しくない	電池を正しく入れなおしてください。	P.21
電池残量が少なくなった	新しい電池を入れてください。	P.21
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	—
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームレバーなどを操作してください。	P.29
カメラ内が結露*した	電源を入れないでしばらくおき、カメラを乾燥させてから、電源を入れてください。	—
パソコンに接続している	パソコンと接続中、カメラは動作しません。	—

* 結露：外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること。カメラが冷えた状態で急に暖かい部屋などに入れた場合に発生します。

シャッターボタンを押しても撮影ができない		
原因	こうしましょう	参照ページ
レンズバリアを閉じている	レンズバリアを開けてください。	P.49
電源が入っていない	レンズバリアを開けてください。	P.28
フラッシュの充電が完了していない	一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.62
ムービー撮影後、カードに書き込み中である	一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.18、57
カードの容量がいっぱいになった	不要な画像を消すか、新しいカードを入れてください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。	P.90、91、100
メモリゲージがすべて点灯している	メモリゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P.18
カードに問題がある	「こんな表示がでたら」でご確認ください。	P.118

フラッシュが発光しない		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが発光禁止に設定されている	フラッシュの設定を「発光禁止」以外に設定してください。	P.62
明るい被写体である	フラッシュを強制的に発光させたい場合は、フラッシュを「強制発光」に設定してください。	P.62
連写・ムービーが設定されている	連写・ムービーではフラッシュはご使用になれません。 ドライブメニューで「単写」に設定してください。	P.69
パノラマ撮影をしている	パノラマではフラッシュはご使用になれません。パノラマ撮影を解除してください。	P.70

ファインダ横の緑ランプとオレンジランプが同時に点滅している		
原因	こうしましょう	参照ページ
電池の残量がない	新しい電池を入れてください。	P.21

液晶モニタが点灯しない		
原因	こうしましょう	参照ページ
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P.29
連写撮影中である	連写中は液晶モニタに表示されません。	P.69

液晶モニタが見にくい		
原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	モードメニューの「液晶モニタ」で液晶モニタの明るさを調節してください。	P.103
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	—
液晶モニタの画面に縦スジが入る	晴天下のような明るい被写体に向けると起こることがあります。故障ではありません。	—

液晶モニタで再生できない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が入っていない	レンズバリアを閉じてから ▶ を押し、液晶モニタを点灯させてください。	P.29、P.79
撮影モードになっている	▭ をすばやく2回押すか、レンズバリアを閉じてから ▶ を押して、再生モードに切り替えてください。	P.29、P.80

カードに画像が記録されていない	液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	—
カードに問題がある	「こんな表示がでたら」でご確認ください。	P.118
テレビに接続している	ビデオケーブルを接続しているときは液晶モニタは点灯しません。	P.85

画像に記録される日付が正しくない		
原因	こうしましょう	参照ページ
日時が設定されていない	日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.34
電池が少なくなってきた	電池が少なくなると、日時設定が解除されたり遅れたりします。新しい電池を入れて、日時を設定してください。	P.21、34
電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態でしばらく放置すると、日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください。	P.21、34

設定した機能が電源を切ると元に戻ってしまう		
原因	こうしましょう	参照ページ
「設定クリア」の機能が「オン」に設定されている	「モードメニュー」の「設定タブ」にある「設定クリア」を「オフ」に設定してください。	P.98

カメラとテレビを接続してもテレビに映像がでない		
原因	こうしましょう	参照ページ
カメラの映像出力信号が間違っている	使用する地域のビデオ出力の設定に合わせてください。	P.108
再生モードになっていない	⊡ をすばやく2回押すか、レンズバリアを閉じてから ▶ を押して、再生モードに切り替えてください。	P.29、80
テレビの映像信号の設定が間違っている	テレビを映像入力モードにしてください。	P.85

画像の仕上がりがよくない

撮影した画像が明るすぎる		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュの設定が「強制発光」になっていた	「強制発光」以外のフラッシュモードに設定してください。	P.62
被写体が明るすぎた	露出補正をマイナス（－）側に設定するか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.76

撮影した画像が暗い		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュを指で覆ってしまった。	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.36
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲内より遠かった	フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。	P.62
フラッシュが「発光禁止」になっていた	フラッシュを「発光禁止」以外に設定してください。	P.62
逆光状態で小さい被写体を撮影した	フラッシュを「強制発光」に設定するか、測光を「スポット」に設定して撮影してください。	P.62、68
連写モードで撮影した	連写モードはシャッタースピードが短くなるので、暗い場所では通常よりも暗く写るおそれがあります。ドライブメニューで「単写」に設定してください。	P.69
雪景色などの明るい被写体を撮ると実際より暗く見える画像が撮れます	露出補正を＋側に補正します。	P.76

室内で撮影した画像の色がおかしい		
原因	こうしましょう	参照ページ
照明の色が影響した	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.77
撮るものに白い部分がなかった	白いものを入れて撮影するか、フラッシュを「強制発光」に設定して撮影してください。	P.62
ホワイトバランスの設定を間違えた	照明に合わせて、もう一度ホワイトバランスを設定しなおしてください。	P.77

画像の一部が欠けてしまった		
原因	こうしましょう	参照ページ
レンズに指やストラップがかかってしまった	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気をつけてください。	P.36
撮影距離が近かった	液晶モニタで実際に撮影される範囲を確認しながら撮影してください。	P.50

ピントが合っていない		
原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押して撮影してください。 また、シャッタースピードが遅くなると手ぶれが起きやすくなります。夜景撮影や暗い状況でフラッシュを「発光禁止」にして撮影するときは三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えて撮影してください。	P.36
レンズが汚れていた	レンズの汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくとかびが生えることがあります。	—
緑ランプが点灯しても正しくピントが合っていないことがあります	被写体と同じ距離のものでフォーカスロックしたあと、構図を決めてください。	P.53

電池の寿命が短い		
原因	こうしましょう	参照ページ
寒い中で使用している	低温下では電池の性能が低下します。カメラを防寒具や衣類の内側に入れるなどして、保温しながら使用してください。	—
電池残量が正しく表示されない	カメラの消費電力が大きく変化する際、電池残量の警告表示なしで電源が切れる場合があります。新しい電池と交換してください。	P.21

メニュー一覧

●撮影メニュー（Pオート／ポートレート／風景／夜景／セルフポートレートモード）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮　影	シーン選択	Pオート／ポートレート／風景／夜景／セルフポートレート	P.46
		測光	ESP／スポット	P.68
		露出補正	−2.0／−1.5／−1.0／−0.5／0／＋0.5／＋1.0／＋1.5／＋2.0	P.76
		ドライブ	単写／連写	P.69
		デジタルズーム	オン／オフ	P.60
		パノラマ※		P.70
		合成ツーショット		P.72
	画　像	ホワイトバランス	オート／晴天／曇天／電球／蛍光灯	P.77
	カード	カードセットアップ	フォーマット／中止	P.100
	設　定	設定クリア	オン／オフ	P.98
			日本語／ENGLISH／FRANCAIS／DEUTSCH	P.32
		ビープ音	オン／オフ	P.105
		レックビュー	オン／オフ	P.104
		ファイル名メモリー	リセット／オート	P.106
		ピクセルマッピング		P.107
		モニタ調整		P.103
		日時設定		P.34
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.108
ムービー				P.57
画質モード			SHQ／HQ／SQ1／SQ2	P.73
モードリセット			実行／中止	P.97

※ セルフポートレート（ ）モードでは選択できません。

●撮影メニュー（ムービーモード）

●再生メニュー（静止画）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	再　生	プロテクト	オン／オフ	P.89
		回転表示	0°／＋90°／－90°	P.86
		プリント予約	1コマ予約／全コマ予約	P.113、111
	編　集	モノクロ作成	新規作成／中止	P.93
		セピア作成	新規作成／中止	P.93
		リサイズ	640×480／320×240／中止	P.94
	カード	カードセットアップ	全コマ消去／フォーマット	P.91、100
	設　定	設定クリア	オン／オフ	P.98
			日本語／ENGLISH／FRANCAIS／DEUTSCH	P.32
		ビープ音	オン／オフ	P.105
		モニタ調整		P.103
		日時設定		P.34
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.108
		インデックス表示	4／9／16	P.83
自動再生				P.84
情報表示				P.102
1コマ消去			消去／中止	P.90

●再生メニュー（ムービー）

トップメニュー
タブ
項目
選択肢
参照頁
モードメニュー
再　生
プロテクト
オン／オフ
P.89
編　集
インデックス作成
決定／再設定／中止
P.95
カード
カードセットアップ
全コマ消去／フォーマット
P.91、100
設　定
設定クリア
オン／オフ
P.98
日本語／ENGLISH／FRANCAIS／DEUTSCH
P.32
ビープ音
オン／オフ
P.105
モニタ調整
P.103
日時設定
P.34
ビデオ出力
NTSC／PAL
P.108
インデックス表示
4／9／16
P.83
ムービープレイ
再生／コマ送り／中止
P.87
情報表示
P.102
1コマ消去
消去／中止
P.90

初期設定一覧

●撮影モード

フラッシュ	オート
マクロ	オフ
セルフタイマー	オフ
撮影モード	静止画
シーン選択	Pオート
ズーム	ワイド
LCD	オフ
測光	ESP
画質モード	HQ
露出補正	0.0
ドライブ	単写
デジタルズーム	オフ
パノラマ撮影	オフ
合成ツーショット	オフ
ホワイトバランス	オート
ファイル名メモリー	リセット

●再生モード

自動再生	オフ
プリント予約	オフ
情報表示	オフ
プロテクト	オフ
回転再生	0°
インデックス表示	9

●その他

設定クリア	オン
	日本語
ビープ音	オン
レックビュー	オン
モニタ調整	±0
日時設定	2003.01.01
ビデオ出力	NTSC

撮影モード別の設定可能な機能

撮影モード／機能	Pオート	ポートレート	風景	夜景	セルフポートレート	ムービー
マクロ	○	○	○	○	○	○
フラッシュ	○	○	○	○	○	×
セルフタイマー	○	○	○	○	○	○
光学ズーム	○	○	○	○	W(広角)固定	○
測光	○	○	○	○	○	○
画質モード	○	○	○	○	○	○※
露出補正	○	○	○	○	○	○
連写	○	○	○	×	○	×
デジタルズーム	○	○	○	○	×	○
パノラマ	○	○	○	○	×	×
合成ツーショット	○	○	○	○	○	×
ホワイトバランス	○	○	○	○	○	○
カードセットアップ	○	○	○	○	○	○
設定クリア	○	○	○	○	○	○
ビープ音	○	○	○	○	○	○
レックビュー	○	○	○	○	○	○
ファイル名メモリー	○	○	○	○	○	○
モニタ設定	○	○	○	○	○	○
日時設定	○	○	○	○	○	○

※　ムービーモードでは、HQ／SQの画質モードのみ設定できます。

カメラのお手入れと保管

●使用後のカメラの取り扱い

カメラの電源を切ってください。

●カメラのお手入れ

1 レンズバリアを閉じてカメラの電源を切ります。
液晶モニタが消灯していることを確認してください。

2 電池を取り出します（P.21）。（AC アダプタをお使いの場合は、まず接続コードプラグをカメラから抜き、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。）

3 カメラの外側
→ 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ
→ 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ
→ レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カード
→ 乾いた柔らかい布で拭きます。

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- お手入れをする前に、必ず電池やACアダプタをカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。

アフターサービス

● 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

● 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

● 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

● 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。

● 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。本製品は日本国内専用のため、海外では修理はできません。万一、海外で故障・不具合が生じた場合は、日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。

● 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

● 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

仕様

形式	：デジタルカメラ（記録・再生型）
記録方式	
静止画	：デジタル記録、JPEG（DCF準拠）、Exif2.2対応、DPOF対応、PRINT Image Matching II対応
ムービー	：QuickTime Motion JPEGに準拠
記録媒体	：xDピクチャーカード（16-256MB）
記録コマ数	
16MBカード使用時	：6枚（SHQ：2048×1536） 20枚（HQ：2048×1536） 76枚（SQ1：1024×768） 165枚（SQ2：640×480）
カメラ部有効画素数	：320万画素
レンズ	：オリンパスレンズ5.8～17.4mm、F3.1～5.2、3群5枚 （35mmフィルム換算35～105mm相当）
測光方式	：撮像素子によるデジタルESP測光、スポット測光
シャッター	：1/2～1/1000秒（夜景モードでは2秒）
撮影範囲	：0.5m～∞（通常） 0.2m～0.5m（マクロ撮影時）
ファインダ	：光学実像式ファインダ
液晶モニタ	：1.8 型（インチ）TFT カラー液晶（低温ポリシリコン）、85000画素
コネクタ	：DC入力端子、USB接続端子、ビデオ出力端子
自動カレンダー機能	：2000～2099年の範囲で自動修正
使用環境	
温度	：0～40℃（動作時）／－20～60℃（保存時）
湿度	：30～90％（動作時）／10～90％（保存時）
電源	：単3アルカリ電池／ニッケル水素電池を2本使用 あるいはリチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）1個 または専用ACアダプタ 単3マンガン電池は使用できません。

大きさ　：幅108mm×高さ57.5mm×厚さ40mm
（突起部を除く）

重さ　：170g（電池／カード別）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

用語解説

画素数
画像を形成する最小単位の点の数。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640×480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640×480のときではモニタ全体に表示されますが、1024×768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

スリープモード（待機状態）
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンや十字ボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

デジタルESP 測光（electro selective pattern）
CCD出力を分割測光によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間を、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

●アルファベット順

CCD（charge coupled device）
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。CCDで受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

DCF（design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

JPEG（joint photographic experts group）
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ／HQ／SQに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

NTSC／PAL（National Television Systems Committee／Phase Alternating Line）
テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

TFT（thin-film transistor）液晶
カラー液晶モニタの一種。

索引

オリンパス光学工業株式会社

●ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を当社のホームページでご提供しております。
オリンパスホームページ（http://www.olympus.co.jp/）から「サポート」→「デジタルカメラ／プリンタ関連」へ進み、ご利用ください。

●電話等でのご相談窓口

カスタマーサポートセンター

フリーダイヤル

0120-084215

携帯電話・PHS からは 0426-42-7499

FAX　0426-42-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　平日　　　　9：30〜21：00
土・日・祝日　10：00〜18：00
（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

●修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先

TEL　0266-41-4195　　FAX　0266-41-5654

〒399-0495　長野県上伊那郡辰野町伊那富6666
オリンパス辰野修理センター
営業時間9：00〜17：00（土・日・祝日及び弊社休日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

東　京 〒101-0052　千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル（オリンパスプラザ内）　Tel.03（3292）3403
札　幌 〒060-0034　札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル　Tel.011（231）2320
仙　台 〒981-3133　仙台市泉区泉中央1の13の4　泉エクセルビル　Tel.022（218）8421
名古屋 〒460-0003　名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル　Tel.052（201）9571
大　阪 〒542-0081　大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター　Tel.06（6252）6991
広　島 〒730-0013　広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル　Tel.082（228）3821
福　岡 〒810-0004　福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル　Tel.092（761）4466
※　土・日曜、祝日および年末年始・夏期休暇は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

1AG6P1P15300--　VT444001